

令和7年度

学校自己評価および学校関係者評価

品川翔英中学校高等学校(中学1～3年)

校訓・教育方針		校訓 自主：自主的に未来を切り拓く力 創造：新たな価値を作り出す英知 貢献：未来に貢献する心 教育方針：GRADUATION POLICY ①愉しむ力 ②主体性 ③自律性 ④協働性 ⑤批判的思考力 ⑥想像力 ⑦貢献する力 これらの3つを基礎に学び続けるLEARNERを育てる。							
教育目標 (カリキュラムポリシー)		「学び続けるLEARNER」を育成するために「自己調整学習」を実践する。基礎基本となるコアカリキュラムに加え、学習者の関心・意欲に応じた多様なカリキュラムが 選択できるような教育課程を編成することで学力を向上させるだけでなく、社会と直接つながることのできるような教育活動を実践し、多種多様な将来へと視野を広げます。							

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価		
年 度 の 目 標					年 度 評 価		実施日		
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価基準	評価項目の達成状況	達成度	次年度の課題と対応策	意見及び要望	評価
●学則定員の確保を図る ●入学者の質の向上を図る	●学則定員は中学校各学年100名で総数300名である。 ●入学者数は定員を確保した。 ●中学在籍数も学則定員を超えた。	●志願者数の増大 ●志願者の学力アップ ●品川翔英小学校からの入学者増加	●学校説明会の質を向上させて本校の教育方針に賛同する生徒を確保する ●受験者数の増加と合格者の学力向上	●説明会への参加者が増加しているか。 ●受験者数の増加と合格者の学力が向上しているか。 ●説明会で学校の内容が的確に伝達されているか。 ●前年度より高い基準で合否判定されたか	●説明会の回数を増やしたり、校外での説明会にも積極的に参加した結果、参加者は大幅に増加した。 ●出願数も昨年度を上回った。 ●入学者数は募集定員を確保した。	A	●学校説明会や入試説明会など学校を知るための内容についてさらなる魅力を含めて工夫、改善する。 学則定員の変更認可を検討するとともに入学者数の段階的な適正化を図る。令和11年度までに入学定員充足率110%以内、収容定員充足率120%以内を目標とする。 ●入学生徒の質が向上するように判定する。	○学校説明会や外部での説明会に積極的に参加し、受験者の確保に努めていた。結果として入学者は、募集定員を確保した。今後は、定員を維持しつつ質の向上も図ってほしい。	A
●学則定員の適正管理をする	●学則定員は中学校各学年100名で総数300名である。 ●入学者数は募集定員をオーバーした。 ●在校生も学則定員をオーバーした。	●入学定員の遵守(充足率100%～110%) ●収容定員の遵守(充足率100%～120%)	●情報分析をしっかりと行い、入学定員を厳守するようにする。	●入学定員が厳守されているか。	●入学者数は定員を確保できたが、目標値をオーバーしてしまった。	C	●入学者の質の向上を図り、データ分析をしっかりとしながら入学者選抜を行う。	○今後は、学則定員は確保しつつ本校の教育方針に賛同する成績優秀者の確保に努めてほしい。	C
●学力向上	●スタディサブリ動画を主要教科の予習や復習に活用し、基礎基本の徹底を図る。 ●学力推移調査では、伸長の度合いに学年・分野による差がみられ、基礎分野の定着に強化の余地がある。	●確認テストにおける得点率の向上 補習対象人数の減少 ●学力推移調査によるGTZ値の上昇 ●学力推移調査でB3の評価を目指す	●家庭学習の時間を確保し、スタディサブリ動画を活用して基礎を固める。 ●授業力を高めて基礎基本を徹底し、確認テストの成績アップにつなげる。 ●学力推移テスト対策を行い、基礎問題の得点率をアップさせる。	●教員間で確認試験結果の情報共有して学力の推移をみる。 ●学力推移調査の結果を分析して不得意分野の克服を検討する。	●一貫クラスで初めて35名が卒業し、その大半が4年制大学に進学した。 ●指名講習の対象者数が増加傾向にあったことを踏まえ、試験前講習を新設し、事後補習から事前支援への転換を図った。	B	●内進生の進路実績が問われるので学力向上に努め、難関、上位大学の実績作りをする。 ●授業の振り返りを行い、その質を高めて講習対象者ゼロを目指す。 ●学力推移調査の問題分析をして、基礎問題の正答率を高める。	○一貫生徒の進路実績が出るように計画的な進路指導を行う。 ○質の高い授業展開により、学力向上が期待される。	B
●LT(探究・道徳)の充実	●調べ学習によっていろいろなことに興味・関心を持ち、その現場を実際に訪れるなどして研鑽を積み、知識を増やす。 ●道徳指導の徹底	●調べ学習に積極的な取り組みをする。 ●体験を通して知識を習得する。 ●体験の振り返りが十分できている。 ●道徳心を身につける。	●生徒の興味・関心を引き出し、できるだけ多くの場所を訪れて理念や特性を深めて学力向上に繋げる。 ●いろいろな事例から適切な判断力が身につくように考えさせる。	●生徒が積極的に参加しているか。 ●振り返りをしっかりと知識の定着を図っているか。 ●適切な道徳心が身に付いているか。	●与えられた課題には確実に取り組んでいる。次の段階として、生徒自身が問いを立て、知識の定着につなげる主体的な学びの支援を進める。 ●PDCAのサイクルの導入は着手段階にあり、振り返りを学習効果の向上へ接続する仕組みを次年度の重点とする。	B	●教師側の投げかけたことから始めるのではなく、各生徒の自己分析から興味・関心を引き出し、探求心を広げられるように指導する。 ●PDCAサイクルによって事例をもとによく考えさせて、成長を促す指導計画を作成する。	○生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を高めて、心技体の成長がみられることを期待する。	B
●学校改革	●教員研修の充実 ●教育の質の向上 ●校則を作り、最低限守ることを徹底する。	●いろいろな研修会に積極的に参加する。 ●生徒の学力向上(模擬試験の成績が伸びている) ●ドレスコードが遵守されているか。	●プログラム実施後のシート提出を確認し、研修状況を確認する。 ●模試の結果分析を徹底する。 ●ドレスコード違反が確認されたらすぐに注意を促し、改善させる。	●振り返りシートが問題なく提出されているか。 ●15段階GTZが1ランクでも上がっているか。 ●ドレスコードを理解し、制服を正しく着こなしているか。	●学校で計画された研修は全教員が参加し、活動していた。 ●個々のGTZ目標を定めてその目標達成するための学習計画を立てて学力向上に努めた。 ●ドレスコード違反は少なくなり、改善に向かっていた。	B	●生徒対応や保護者対応の質を高めるため、事例研究型の研修(人権教育、ハラスメント防止、個人情報の適正な取り扱いを含む)を計画的に実施する。 ●真面目に学習に取り組み、スタディサブリを活用して基礎学力の定着が図られるように指導計画を立てる。 ●生活指導の基準を「学校生活の決まり」として明文化し、生徒・保護者の意見聴取を経たうえで共有し、その定着を図る。	○研修から得られた知識を生かして生徒が安心して通える学校づくりを期待する。	B